

東京都市大学  
TOKYO CITY UNIVERSITY

男女共同参画室

SANKAKU Letter No.10

2014年1月22日(水)開催

## 茶の湯体験講座

1月22日(水)、東京都市大学世田谷キャンパス14号館「武蔵庵」にて、男女共同参画室による「茶の湯体験講座」を開催いたしました。

今回の講座の目的は、茶の湯を通して日本文化への関心と理解を高めると、男女共同参画について考えるきっかけ作り。世田谷キャンパス・等々力キャンパスから計10名の学生が参加し、心地良い緊張感の中、お茶会がスタートしました。茶の湯については、男女共同参画室室員の岡山理香准教授(共通教育部)、工学部建築学科の鈴木浩技術員が解説。参加学生の約半数は初めてのお茶席となり、真剣な表情でお茶の歴史や所作について耳を傾けていました。お点前を体験できる時間もあり、不慣れな手つきながらも背筋を伸ばしてお茶を点てる姿は、やはり美しいものでした。

お茶の席が終わると、男女共同参画室 岡田室長を交え、お茶の感想や男女共同参画にまつわるお話をいたしました。男性の鈴木浩技術員がお茶を点てたことから、企業などでは昔「お茶くみは女性の仕事」という考え方があったことや、現代では男女の区別なくお客様にお茶出しをする企業が増えている、という観点から男女共同参画について話し合いを設けました。学生からは「男性のお点前はかっこ良かった」という声や「言われてみると、無意識に男性と女性の役割を考えていることがあるかもしれない」という声が上がりました。男女共同参画という言葉自体、初めて聞いたという学生は「自分は男性だから関係がないと思っていたが、男女問わず考えなければいけないことなんだと初めて気が付いた」と、新たな気づきを持ったようです。等々力キャンパス・世田谷キャンパスの学生間でも、男女共同参画に対する認識の差が感じられる場面もありましたが、最後には「社会に出ていくには、男性も女性も男女共同参画という意識を持たなければならない」と真剣に男女共同参画に向き合うきっかけとなったようでした。



【岡田室長より】男女共同参画について話をするにあたり、どのように学生に話をするか悩みましたが、率直に今までの男女共同参画の歴史や、これから目指したい社会の話をした。思っていたよりずっと学生が素直に、真剣に話を聞いていた。

このような話を抵抗なく聞き入れられるということは、柔軟性のある人間に育っていく素地となり、都市大の人間力を育てる力となるのだ、と実感した。

## リケジョ

STAP細胞の発見により、世間での注目度が急速に上昇した「リケジョ」。

本学にも注目すべき「リケジョ」が多数在籍していますが、今回は昨年10月に【桐蔭医用工学国際シンポジウム】にてポスター優秀賞を受賞された生体医工学専攻 修士1年生の大賀愛奈さん、鵜田千晴さんに「リケジョ」が考える「今」と「将来」についてお話を伺いました。

### ——【桐蔭医用国際シンポジウム】ポスター優秀賞の受賞について

受賞の喜びの声を求めると、「あ〜取れたのかあ、という感じ」と、安堵の表情を浮かべながらもアッサリした反応。けれども喜んでいないわけではなく、ちょっと照れ屋な二人なのだ、ということが話をしていくうちに見えてくる。今回のシンポジウムは全てが英語で苦勞も多かった。大賀さんは「英語だとアドリブがきかないから、どんな質問が投げ掛けられるか不安だった」と語り、鵜田さんに至っては研究室で寝ている学生を相手に夜な夜な説明の練習をしたとか。

### ——将来ビジョンは?

鵜田さんは「将来は人とのコミュニケーションがある医療系の仕事をしたい。先輩が厳しかったので、自分は優しさと厳しさを併せ持った指導者になれるよう頑張りたい」とリーダーシップの大切さを強調し「今まで笑顔で乗り切れてきた事が社会に出ると通用しなくなるので、自分の責任感でどれだけ通用するのか知りたい。辛くても自分で楽しさを見つけてくれるから、気持ちに余裕を持ってやりたいことを見つけて社会貢献をしたい」大賀さんは「もっともっと学んで、色々なプロジェクトに携わってみたい」と意欲的だ。また、結婚や出産後の仕事と家庭の両立についての考えを尋ねると「女性が働きやすい環境=出産を前提とした環境作り」と感じることがある。出産しない選択をした人へのバリバリ仕事をする環境や、病気の人でも働きやすい環境など、様々な人にとっての「働きやすい環境」を整えて貢献をしたい」と、力強い答えが返ってきた。

### ——平田先生より

我々の研究分野である生体医工学もしくは医用工学では、総合力が重要です。特に、主観的思考と客観的思考のより良いバランスが独創的な発想を生み出すと感じています。STAP(刺激惹起性多能性獲得)細胞の開発で注目を浴びている理研・小保方晴子研究員にも言えることですが、「リケジョ」の魅力は主観的かつ客観的思考の併用による自由な発想力を持ちつつも、しっかりとした自分の信念と情熱を持っていることではないかと思っています。理系男子(リケダン)にはないユニークな発想力と行動力に期待しています。

### ——男子学生が多い中で、苦勞があるのでは?

…二人とも思い当たる節はあまり無い様子。大賀さんは「慣れただけかもしれないけれど(女性が少ないからと言って)人や物事に期待をしちゃいけないのだと思う。それに社会に出ると男性が多いだろうから、男性への対応に慣れておいた方が得!」、鵜田さんは「先生にはすぐ覚えてもらえるし、女子学生が少なくて得をしたことの方が多いと思う」と笑顔で語る。強いて言えば、実習着に女性用がなかったのがサイズ面で少し大変だったとのこと。

### ——もっと女子学生が増えてほしい?

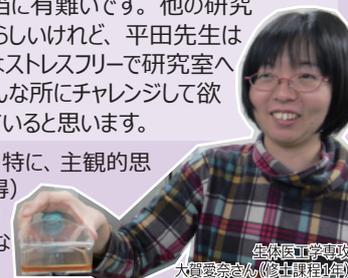
二人揃って「うーん…少なくともいいかも」と意外な答え。理由は「女子学生が少ないから女の子同士がとて仲良くなるのだと思う。でも1学科3人以下にはならないで欲しい」だそう「理系の女子は何事も冷静に結論を出すから、付き合い易い」と感じている様子。

### ——平田先生へ

いつも自由らせて頂き、ありがとうございます。学会などへ積極的に参加をする様にと機会与えてくれることは本当に有難いです。他の研究室には日によって不機嫌な先生もいるらしいけれど、平田先生はいつも同じ感じでいてくれるので、私達はストレスフリーで研究室へ行くことができます。学生なんだから色んな所にチャレンジして欲しいと言ってもらえるので、とても恵まれていると思います。



生体医工学専攻  
鵜田千晴さん(修士課程1年)



生体医工学専攻  
大賀愛奈さん(修士課程1年)

「働く」「暮らす」を考えよう

Working Mother



工学部 機械工学科  
伊東明美先生

伊東 明美先生（工学部 機械工学科）。本学卒業生で現在小学6年生の息子をもつワーキングマザー。前職の日野自動車に在職中に産。産後は仕事がプログラミングの時期だったこともあり、子育てをしながら在宅勤務。その後、子供が小学3年生の時に本校へ転職、研究支援員などを利用しながら家事・子育てと仕事を両立。昨年、所属している公益社団法人自動車技術会が「女性の会（仮称）」を立ち上げ、委員長の使命を受ける。多忙な日々の中で多くの顔を持つ伊東先生の素顔とは…!?

働きながら子育てをすることについて

「例えば子供が熱を出した時、企業ならば休みを取り易かったが大学は講義などの関係で休みを取りにくい。が、逆に言えば講義以外は時間の自由がきくので有難い」と話す。本学で平成21年～23年の間に配置した【研究支援員制度】を利用したことについては「とても有難かった。学生たちに研究支援員を任せ給料を支払うことで、責任を持って取り組んでくれたし、男子学生にとっても良い勉強になったのではないかとし、さらに「育児と両立となると時間のやりくり工夫が必要だったり、理解の無い人がいれば摩擦が起きたり、時には疲れてめげてしまうこともあるが、こうした仕組みはそういう状況にある女性を励ましてくれる」と続けた。  
※研究支援員制度…女性研究者等の研究活動を支援するため、子育て中の女性研究者を対象に研究支援員を配置する制度。（現在、本学では廃止）

企業から大学へ転職するにあたって

「転職の時、子供に『将来エンジンのことを教えてほしかったのに、なんで（前職を）辞めたの!』と怒られました」と笑いながら話す伊東先生。本学で働き始めた頃は、通勤時間の増加や水素トラック作りなどによる残業が多く、寂しい思いをした子供は赤ちゃん返りをしてしまい大変だったそう。仕事後、学童保育に迎えに行くのは18時頃だったが、ご主人に迎えを頼むと「仕事で遅くなった」と1時間程遅れて迎えに行くことがよくあった。親を待つ子供にとっての1時間がどれだけ長いことか…と、夫婦間での感覚の差に悩んだこともあったと語る。

新たな使命

大学勤務も落ち着いてきた昨年、在籍している自動車技術会が「女性の会（仮称）」を設立し委員長の命を受けた。機械学会や土木学会などは「女性の会」の活動が活発で、自動車技術会の男性理事達がそれに倣って会の立ち上げを決定したのだ。

伊東先生と事務局の女性一名とで「女性の会（仮称）」の基盤づくりが始まり、まずは自動車会社各社より幹事として女性技術者を出して頂いた。活動の第一歩として、女性会員を集めて講演会と懇親会を開催したが、そこで行ったアンケート調査には様々な反応があった。「女性の会（仮称）」は20～30代の女性には概ね好評、40～50代の女性には会に対して後ろ向きという結果であった。意見の中には「このような活動は男性から反感を買うのでやめて欲しい」「今更何？」など、手厳しいものも並んだ。

「色々な意見が出るのは分かっていた」という伊東先生に、それでも活動を続ける理由を伺うと、こんな答えが返ってきた。「子育てをしながら働く女性技術者は『産前と同じアウトプットを』と強いプレッシャーを感じることもある。だから、若い女性技術者が行き詰ってしまった時に、助けてあげる仕組みをつくりたい。そして、これから増えていくであろう女性技術者が働きやすい環境を作り、世の中に提案していくことができれば意義があるのではないかと思う。」女性だけでなく、男性技術者でも介護などで残業ができない人は苦しんでいるという実態もあるようだ。「女性の会（仮称）」の形は模索中だが、女性会員から潜在的なニーズを吸い上げ、方向性の舵取りに注力していきたいという。この活動で好評だった講演会は5月に3回目を開催予定。

次世代へ

昔は、男女が区別されることが多かったが、今の学生たちは男女の区別を感じることなく育ってきたように思う。女性が選べる社会になりつつあり、良い傾向であると思う。そのため、「女性に」という言葉は使わなくても良いのかも知れない。今の学生を見ていると、良い意味で肩に力が入っていないように感じる。しかし、女子学生・男子学生共、何かあった時に、「もうひと踏ん張り」してほしい。人生悪い時ばかりではないし、苦しいことは、必ず自分を育ててくれると思う。

取材中、颯爽たる振る舞いの中に包み込むような優しさを感じられた。母の顔と技術者の顔から織りなされる柔靱さは、これまでの努力・経験志から生まれた結晶なのかも知れない。伊東先生が言うように、苦しみは必ず成長をもたらす。これからの世代には「もうひと踏ん張り」の気持ちを大切にしたい。

◆◆◆講演者を探しています◆◆◆

公益社団法人自動車技術会「女性の会（仮称）」では、働く女性を対象にキャリアの構築やワークライフバランス、働く環境などをテーマとした講演会を開催しており、講演者を募集しています。講演をして下さる方、講演者をご紹介くださる方は伊東先生までご連絡をお願いいたします。

**1/15(水) 芝浦工大訪問**  
1/15(水)芝浦工業大学を訪問し、男女共同参画に関する意見交換を行いました。  
芝浦工業大学では2013年秋、文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け、さまざまな活動を始めました。  
**3/15(土) 13:00～**  
【男女共同参画推進シンポジウム】にて学長対談「女性研究者の飛躍に向けて」が行われる予定です。是非、ご参加ください。  
芝浦工業大学 村上 雅人学長  
東京都市大学 北澤 宏一学長

**1/24(金) 横浜キャンパス訪問**

1/24(金) 横浜キャンパスを訪問しました。諏訪先生（メディア情報学部 情報システム学科）、小俣先生（メディア情報学部 社会メディア学科・男女共同参画室室員）と、横浜キャンパスの現状や今後の企画についての話し合いを行いました。キャンパス毎に男女共同参画に対する認識の相違があるため、それぞれに合った企画や情報発信をする必要性を改めて感じました。YCに在籍する元気な女子学生も取材していきたいと思えます。諏訪先生、小俣先生、ありがとうございました！

**お知らせ**

■ソーシャルゼミ開催  
『ダイバーシティ・男女共同参画の未来』  
・講師 井上泰日子先生  
知識工学部 経営システム工学科  
・日時 2014/2/26 (水)  
14:30～16:30  
・場所 世田谷キャンパス2号館2階  
男女共同参画室  
・参加費 無料

■小川順子先生 最終講義  
『男女共同参画と原子力』  
・日時 2014/3/7 (金) 17:00～  
(懇親会 18:00～)  
・場所 最終講義: 1号館2階12E 教室  
懇親会: 1号館4階ラウンジオーク  
・参加費 講義: 無料  
懇親会: 会費制  
(学内外: 3,000円/学生: 1,000円)